

令和2年第4回（臨時）高砂市教育委員会 会議録

日時

令和2年2月28日午後1時30分

場所

高砂市役所西庁舎4階会議室

出席者

衣笠教育長、山名委員、神尾委員、布施委員

欠席者

吉田委員

出席事務局職員

永安教育部長、阿部教育推進室長兼生涯学習課長、赤松学校教育室長、
横山学校教育室学校教育課長、北野教育推進室教育総務課長

本日の会議に付した事件

その他

- 1 新型コロナウイルス感染症に関する対策について

議 事 その他 1 新型コロナウイルス感染症に関する対策について

○事務局 (その他 1 について説明)

○委員 国は、3月2日から24日まで、3学期いっぱい休みにするということですね。

○事務局 そうです。

○委員 県はいつまでですか。

○事務局 3月3日から15日までです。

○委員 市は3月3日から3月24日まで。県の指針と高砂市のずれというのは、高砂独自で決めていいということですか。

○事務局 はい。

○委員 他のところで言われている3月15日までの2週間を1つのめどとして、後の期間に関してはその後で検討するというのが他市には多いと思いますが、24日まで無条件で休校ですか。

○委員 2週間にするか3週間にするかについては、国と県との判断が違っていて、それまで色々な議論があって、最終的には市長の判断ということで、それは賛否両論がある中での判断だから、それは従わざるを得ないのかなという思いで、私たちが判断はできません。ただ、開始を3月2日ではなくて3日にしたことは非常にいい判断だなと思います。春休みが長くなると、その間の学習課題を与えないといけません。各学年である程度宿題、課題を提示してあげないといけないと思いますし、今回は特にウイルスの件ですので、休校中の行動の規制も設けていかないといけないと思います。また、部活動はないと思いますが、外部の教育活動は一体どうなるのだろうと。活動を休止したり合宿をやめたりしているところもあると聞いていますが、強行するところもあるかもしれません。そういうところも徹底するというようなことを考えると、3月2日月曜日に一度集めて、細かい部分の指導、過ごし方を子供たちに徹底しておかないと、何のための3週間の休みだったのだということになってしまうと思うので、3月3日からスタートというのはとても大切なことだなと思いました。

○委員 まず、長い期間を休むということで、学年での授業を残したまま進級するということがあると思います。それは非常に課題を残すことだと思います。休校期間を短くするのであれば短いほうがいだろうし、状況に応じて長くするべきときは長くするという、選択肢として幅を持たせたほうがいいのではないかというのが私の意見です。それと、共働きの家庭への対応を具体的にどう対応するのか。例えば医療関係者のお母さんとか、お父さんが両方働いていたりすると、今が一番忙しいときなので休めない人がいます。その対応をどうするのかというのも非常に困惑していると思います。例えば大阪のように学校側で教室を開放して、ただそれは限定的ということで、コロナウイルスが蔓延しないような個々に離れた

状態であるということもケアしてという、期間が長ければ長いほど課題も膨らんでくるのではないかという気がします。様子を見ながらでもその決断がよかったのかなと思います。

○委員 3週間休んで、そのまま春休みに突入してしまうと、子供たちの学習の中のけじめが曖昧になるということと、教師としてのチェックができないということもあります。長く休めば、家庭学習にしる、学校に来させて教室の中で自由勉強をさせるような形にしる、ある程度チェックが必要です。次の新学年まで学校に来なくていいというような形というよりも、1つのチェックポイントとして、世の中の情勢を見るためにも、検討する日として設定しておかないといけないと思います。また、3週間のこのまま休校となると、子供もメリハリのつかない生活を送ることになるので、2週間後にももしかしたら1回学校に行くかもという認識を持たせておくべきだと思います。やっぱり区切ってあげないと、子供にとっては大変なことになるのではないかなと思います。

○委員 家庭が一番不安になってくると思うので、学校と家庭が連絡を頻繁にしていけないといけないと思います。家庭訪問を色々な形を工夫しながらなるべく行き、電子メール等の色々なツールも使いながら、生徒と教師の連絡を密にする。学校側も今、ウイルスにかかっている子はいませんよとか、そういう情報発信をする。そういう細やかな連絡体制をとっていかないと、だらだらと過ごすことになってしまうと思います。それとあわせて、必要な授業数は変わらないので、授業をどこで補填するかというのが大きな問題で、小6や中3は非常に難しいと思います。それ以外は次の学年で何とかクリアしていけるかもしれません。中学校3年生は卒業10日前ですので、大体終わっているとは思いますが、教科によっては、残っている部分もあるかもしれないし、未履修等の問題に発展してしまうと大変なので、そういうケアも細やかにしていかなければいけません。そのため、春休みに何日か出ていくというのがあるかだと思います。先の話になると思うのですが、そういうこともあらかじめ計画を立てていかなければいけないのかなと思います。

○委員 昨日の資料では、学習できなかった分に関しては問題にしないという趣旨の文書が来ていたと思います。制度上は問題ないとしていますが、授業でやれなかったことに対しての内容を、家庭学習なりをして欲しい。また、少人数で、感染の症状もないような状態なら、休校にはするけど希望者への個別指導などの機会を与える場の提供があってもいいと思います。また、先ほども言ったように、子供にとっての区切りをしておかないといけないと思います。子供に大きなスケジュールを示しておいてあげないといけないなと思います。

○教育長 この期間の家庭での生活の子供の意識の問題と、授業の補填の問題となのですが、事務局どうですか。

○事務局 1つ目の家庭での過ごし方については、本日校長会がありまして、校長会では家庭での過ごし方、こんなことを児童に伝えてくださいと、熱をはかったり計画的

に勉強したり、課題は週に1回程度ポスティングするというような内容で校長宛てに連絡をしているところです。月曜日に登校して、改めて指導していただく、そういう流れで考えております。

- 委員 ポスティングというのは課題を担当から運ばれてくるわけですか。
- 事務局 はい。
- 委員 家庭訪問ではなく、あえて会わないのですか。
- 事務局 そういう想定をしています。
- 委員 郵送するということですか。
- 事務局 直接訪問してポストに課題を入れます。
- 委員 課題ができたならそれを受け取ることはしないのですか。
- 事務局 課題を受け取るのは、次回登校してからと考えています。
- 委員 かなり膨大な量にならないですか。それに、進捗状況は確認できないですね。3週間プラス春休みもあったらかなり長い期間、何もフォローできていないということになるのですけれども、やれているかどうかというのが。
- 事務局 はい。確認はできておりません。
- 委員 ここがわからないというフィードバックも受けられないということですね。コミュニケーションを何か持ったほうがいいと思います。長期間ですし、授業もないので、授業のかわりに課題を与えるとすると、わからないことを放置するということは、やはり教師としてはよくないのではないですか。やってもらっているつもりで、実態は知りませんということになります。やり方がまずいのではないかと思います。
- 教育長 顔は合わさないということは、感染防止という視点でということですか。
- 事務局 はい、そういう視点で考えております。
- 教育長 例えば短時間、元気そうだな、頑張ってる勉強しているのかと話してから渡すのは。
- 事務局 電話連絡で考えています。
- 教育長 顔を見てあいさつするのは、やはり駄目なのですか。
- 委員 それなりに離れて、唾は飛ぶとしても、マスクをつけて顔を見ることは別に構わないかと。
- 委員 私もそう思います。
- 委員 やはり子供の顔を見て、話さなければいけないと思います。
- 教育長 そんなにひつつく必要はないですから、「元気にしているか」と、「宿題、課題はできている？」という形で、「これ、今週のだよ」と渡すぐらいは、感染に対する対応として問題ないのかなという思いはありますけど、どうですか。何をもってその判断をされたのですか。
- 事務局 できるだけ接触しないようにという判断でございました。
- 委員 子供のためと言うけど、子供にとっての社会は学校生活であって、先生と接触して、指導されることは子供にとってすごく大事な事です。それに対して、実際に

家庭訪問もしない、電話だけで接触するのを避けるという形だったら、先生は何をしているのかわかりません。

- 教育長 休憩中に色々と委員の皆さんからご意見をいただいて、休業期間中の子供がだらだら生活してしまったり、親の勤めの中で1人で過ごしているとかいう子供がいたり、色々な家庭の状況があると思うのですが、そのことの確認や、指導を担当の先生含め学校の教師がしっかりと見きわめて、指導が必要な場合は指導し、温かい言葉をかける等の手だてが必要だというご意見をいただいたと思っております。それについて、事務局のほうから。
- 事務局 平常よりも厳しい態度で臨んでいきたいと考えております。
- 教育長 よろしいでしょうか。ほかに何か。先ほど未履修の話も出ましたが、ここはどうですか。
- 事務局 終わりがいつになるかわからないというところで、学年をまたいで補習をしたり、休業が明けたときに補習をしたりと、何とか補習できる方法を考えているところです。まだ具体的にどうというところまでは行っていないところです。
- 事務局 委員がおっしゃるように、保護者の方も心配されるとこだと思います。臨時休業後ですので、4月になってしまうと思うのですけれども、時間をとってしっかり補填できるように、各学年の今残っている部分についてもしっかりと把握した上でやってくださいというのは校長会でもお願いしているところです。
- 委員 もし補填するのだったら、今でもいっぱいいっぴいでやっています。そうすると、例えば土曜日の授業だとか、そういうことも検討の余地に入ってくるのですか。
- 事務局 今のところは、5時間で帰る日であるとか、昼まで帰っていた時間とかいうのを何とか工夫できないかなとは思っていますが、4月になったら本当に再開できるのかということもあるので、どんな方法でやるかというのは学校とまた詰めていきたいと考えています。
- 委員 長期の休みになるために、何日のうちにどうなっていくのだろうという形の見通しを立ててあげないと、子供にとってメリハリのつかない、だらだらとした1カ月になってしまいます。子供にスケジュールとか見通しを伝えていくということが子供に対するケアだと思います。チェックポイントとして、やっぱり15日までの対応で、もう1回そこで再検討して、再開することがあり得ますというような形も含み持って子供に言うておかないといけないのではないかなと思います。3週間なら、生活をするに当たってどんな形で、何をよりどころとして、その間過ごしたらいいのか、方針が欲しいです。
- 教育長 まず、休業期間中に子供がしっかりと意識を持って自分の生活をしていくということが大切です。子供のことを考えたら、子供たちが有意義に過ごすためには2週間ぐらいをめどに、子供の不安を解消することも含めて、登校日等の機会が必要だというご意見をいただきましたので、そのときの状況にもよりますけれども、そういった機会を持つことも検討してみたいと思っております。それと、家庭訪

間につきましては、訪問したときには、完全にシャットアウトではなくて、コミュニケーションをとることも考えていきたいと思っております。授業の補填につきましても、まだ明確な考え方は出ておりませんが、早急に方針を出して、学校にも連絡をしていきたいと思っております。それから、大きな課題ですが学童について。通常は学校に来て、放課後、学童保育に行くという形なのですが、休業期間中は午前中から子供を預かってくれるシステムがないと働きに行っている方が困っているということで、こども未来部で検討、調整して、できるだけ保護者が安心できるような形を進めているところです。特に低学年の子供をお持ちの方でお仕事に行っている、どうしても休めない方の子供をどういった形で受け入れるのかということが大きな課題になっていますので、ご意見をいただけたらと思います。大阪では学校が受け入れるような話もニュースで入ってきています。また、市長が県の総会で他市町の状況を聞くと、休校であっても学校を開けて受け入れるという市町もあると聞いてきているということです。他市のとおりする必要はないと思いますが、高砂市として考え方を持っていかなければならないと思いますので、ご意見をいただけたらありがたいと思います。

○委員 学校側が教室をあけて、集団感染のことをケアしながら、必要な方については受け入れて、学校の先生なり誰かがそこで自習状況を確認するとかフォローしていくということで体制をとるといふニュースがあり、それは1つのいい手だなと思います。一般の家庭の方に聞くと、やはり困るといふ方が多数いました。実際に働かなかつたら収入がないし、休業しますと言ったらもう来なくていいですよと言われる方も多いと思います。家庭的にも非常に困ってしまうだろうから、大阪の話というのには1つの手段だと思うので、検討の余地はあると思います。

○委員 学童の方々も、午後からだから可能であったところがあり、朝からやるのは大変なことだろうと思います。学校が預かるとしたら、学校の中での食事の問題が出てくると思います。給食はないと思いますので、弁当を持ってこさせるとか、家に一旦帰すとか、色々なことが出てきます。ただ、姿勢としては学校で受け入れるような形は、基本としてはあるべきだと思います。学童の方も、普段は学童と違った仕事をしながらやっている方も多いので、過重に負担をかけてしまうと、そちらもパニックになると思います。先生が午前中だけでも見られるような形なら、そうしないと仕方ないかなと思います。それは地域で育てるために、学校としての責任だろうなと思っています。

○委員 学童は午前中から検討していただいているとのことですが、それは是非お願いしたいと思います。また、他に受け入れていただくところがないと思いますので、学校で受け入れることになると思います。ただ、学校で受け入れるとき、必要性の選別も難しいだろうと思います。また、ウイルスを避けないといけないということで、教室を多く使うことになるので、多くの教師が関わっていくことになります。そう考えると、やっぱり1日は無理なので、午前中の半日にせざるを得な

いのかなと思います。

- 委員 午前中だけで済むような働き方をしている人だったらいいのだけれども、やはり午後からのことも考えなければいけないのではないですか。
- 委員 もちろんそうです。ただ、学校現場で見ようとすると午前中の半日が限界だと思います。夕方まで面倒を見ていただきたいというのはあるとおもいますが、現場もそこまで見られるのかなと。
- 委員 クラスがいっぱいあっても、自習などで大体自分たちでやっています。ずっとついていなくても、学校の先生が巡回みたいに回ったら大丈夫なのでは。
- 委員 それも学年によって違いまして、ついてあげないといけない低学年もいます。また、共働きではないですが、うちは高齢者がいるからとか、色々な理由が出てきたりして、なかなか線引きが難しいと思います。
- 委員 私は可能ならば1日、各自弁当を持ってくるなり、それは家庭自身で考えてもらう。午前中だけだったら大丈夫という人も、何割かいるかもしれませんが、午後も働いている人もいますので、午前中というのは困りますという保護者も多いと思うのです。そここのところはケアする必要があるのではないかと。
- 委員 色々考えることはあると思いますが、子供は暫く預かれないと思います。預かる預からない子の選別ができないのは事実で、基準が何もありません。もし保護者が皆で行こうということになってしまうと、歯止めが効かなくなると思います。どうする場合預かるのか、また、感染を防止するためには何人まで預かるかというのも線引きができません。本当にやむを得ない場合しか預かれないのだろうなと思います。また、複数の先生で預かるような形をしないと無理かなと思います。学校で授業をしているときと違って、子供を預かるときには一人では少人数しか見られません。いつもはみんなで見ているからできることですので。また、預かっている子の状態が悪くなったときは隔離しなければいけません。毎日皆の熱をはからないといけないし、その都度健康状態を聞いて見ておかないといけません。1人熱が出ていたといたら、何故受けたのだということになります。その辺の考えは難しいので、休校の期間が長くなったときはすると思いますが、最初のときは預かれないだろうと思います。
- 委員 そういう基準というのを他から情報を得て、それを1つ参考にしたらどうでしょう。大阪もやるということはもう言っているので、大阪の基準を確認してみてもいいと思います。
- 教育長 子供の預かり先がない方もおられるのではないかとということで、委員の皆さんからご意見をいただいて、どんな形でというのはまだわかりませんが、できたら受け入れることも想定して、それが可能なか難しいのかということをもう少し時間をいただいて検討したいと思いますのでよろしくお願いします。
- 委員 小学校、中学校、高校に関してということですが、幼稚園、保育園の子供さんたちもいます。そちらへの方針、指針は出ているのですか。

- 事務局 幼保については開けるということです。
- 委員 集団感染を防ぐということで、小学校、中学校、高校の休校は理解できますが、幼稚園、保育園も集団感染源になり得ると思うのですが、なぜそれを外しているのか、理由があったら教えてください。
- 事務局 幼稚園は別なのですけれども、保育園とこども園は、2号、3号になりますと、セーフティーネット的な施設であるということで、そこは厚労省のほうで別途、学童も含めて開ける方向でという要請があったと聞いています。高砂市の場合、ほとんどがこども園になっており、こども園が開いているのに1号の子供だけ帰ってもらうというのもどうかということもあり、こども園に関しては開けているから来ていただいてもいいと。それなら幼稚園も一緒だということで来ていただくということであろうと思っています。
- 教育長 最後に、卒業式の関係を前回説明したのと若干変わっているところがあるので、変わっている点だけ説明をお願いします。
- 事務局 小学校、中学校ともに時間を短くして卒業式をするということです。呼びかけをなくすとか、送辞、答辞をする者だけを学校に呼ぶとか、できるだけ少ない人数で保護者を呼ぶと聞いております。小学校では現在、午前中の校長会では来賓なしにしようという話も聞いております。中学校では来賓をやっぱりお迎えしたほうがいいのかという話を聞いております。あと、予行演習はなしで、卒業式を実施しようという動きをしています。
- 委員 卒業式の日程は、休業日の期間に入りますよね。
- 事務局 はい。休業日の期間に入ります。卒業式は例外的に登校するという方向で考えているところです。
- 教育長 休業期間中であっても卒業式や入試などの判断はお任せします。ただ、県立の学校につきましては休業期間中の卒業式はしないという考え方はありました。
- 委員 高砂市はとりあえず予定通り行いますということですか。
- 教育長 中学校は17日に変更しております。小学校は予定どおり23日にやるという話になっています。
- 委員 中学校と小学校は、来賓者があるなしというのは、一貫性がない気がするのですが、それが承認されているかというのは教えてもらえませんか。
- 事務局 中学校では10日が卒業式で、校長会で今の状況を踏まえてということで決められました。小学校については、それを受けて休業日が長くなるということ踏まえてそのような日程で内容を検討されています。まだ確定というところではありませんので、その辺は今後も検討していきます。
- 委員 中学校の日程は17日に変更されたのですよね。
- 事務局 はい。
- 委員 一貫性がないように思います。同じ卒業式で、同じような環境の中にいるので、どちらかに決めたほうがいいのではないかと思います。保護者無しで開催したら

どうですかという意見もありましたし、人数を減らして感染の機会を下げるという方向に持っていくのだったらそっちのほうがよかったのではないかと思うのですけれども、やっぱり結果的には保護者は人数を減らすのですか。

○事務局 はい、できるだけマスクをして来ていただいたり、アルコール消毒を入り口に置いたりという考え方です。

○委員 保護者、来賓もなしでいいのではないかという話もありましたが、結局折衷案になってしまっています。もう1回来賓者だけでも、あるなしを見直してもいいのではないですか。高砂市として一貫性が全くないという感じがするので、何のための対策をやっているのかというところが疑問視されるような気がします。

○教育長 教育委員会が来賓をなしにしろとか呼びなさいとかいうことはできなくて、校長会の判断で、小学校は小学校長会で議論した上で、中学校は中学校長会で議論した上での最終的な判断なので、そこは校長先生方にお任せするしかないのかなと思っています。委員がおっしゃるように、一貫性ということを見ると、中学校と小学校が違う、何の明確な理由も見当たらないですけれども、そういう形ですというお知らせだけになってしまったのです。

○委員 教育委員会ではその辺は議論して、こうしてくださいよとは言えないということですかね。

○教育長 そこまでのところまではちょっと言いづらいですね。

○委員 学校で、例えば来賓の数も学校によって全然違うので、中学校でも違うし小学校でも違うし、だから当然中学校と小学校で違うから、その辺の一貫性は現場でも求めているので、学校現場、校長とかの判断でやっていると思います。

○教育長 よろしいでしょうか。あと何かございましたら。なければ、一番大きな課題になりました子供たちの受け入れの件はまた検討したいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、教育委員会を閉会いたします。

令和2年2月28日 午後3時17分 教育長会議の閉会を宣告
